

保
管

1155

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

一月十一

軍務局

司令長官
參謀長

參謀

横港第一 四ノ編 四

副官

大正十三年一月九日

日進達

海軍大臣 村止格一敬

横須賀海軍港務部長 中山 勲

第一課保管船ニ編入ノ件

船名	編入年月日	保管船ニ編入理由
横須賀海軍港務部所属 右報告又	大正十三年一月九日	代船トシテ大正十三年官務第三六三號ニ依ル公報第三五 三三號ヲ受領シタルニ付

海

横鎮 13.1.10 受

88

1156

司令長官

参謀長

参謀

副官

海

軍

房受

一万十番

鎮横 13.1.14 免

一月十日 日進達

大正十三年一月十四日

軍務局

第一課

海軍大臣 村上格一 敬

横濱賀海軍事務局長 中山 鞠信

軍務局長 原 清

18. 月十番

海軍部

横濱賀海軍事務局 事務

名

保管船ニ編入ノ件

編入年月日

保管船ニ編入理由

大正十三年一月十日

取付取表形等飯意夕飯側取表引漏水シ編入理由
取付取表形等飯意夕飯側取表引漏水シ編入理由
取付取表形等飯意夕飯側取表引漏水シ編入理由

右報告ス

總務部

第一課

海軍部

終

1157

吳港第八號ノ一三

大正十三年一月十七日

吳海軍港務部長 田中 勇

海軍大臣村上格一殿

還納船艇ニ編入ノ件

當部船艇左記船艇ノ定數超過ノ爲メ還納船艇ニ編入致候

18. 1. 17

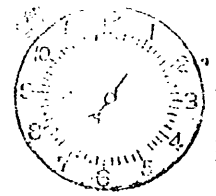
軍務局

還納

左記

公稱番號	船種	還納元	還納船艇ニ編入年月日	還納理由
第三九號	曳船	吳海軍港務部	大正十三年一月十八日	代船受領定數超過ニ付

(終)



1. 23 PM



1158

海軍

軍務局

吳鎮守府
20 號 八 五

大正十三年 一月二十五日

吳鎮守府司令長官 鈴木貫太郎

海軍大臣村上格一 殿

保管船一時限り使用ノ件

海軍港務部 保管ノ左記雜役船ヲ該港務部保管
船等ニ時限り使用セム後
大報生リス

左記

公稱番號	船種	隻數	還納元	記
第三九號	曳船	壹	吳海軍港務部	事

(終)

海軍

一月廿四日

官房受

雜役船

1159

修書

大正十三年三月八日
午後五時
海軍省 榮

吳鎮守府司令長官

海軍大臣

第十八潜水艦、圓航、終、當分、間、防備隊

三保管也

軍務局



軍務局

濟

三月十五日

日進

司令長官

参謀

副官

海軍

三月十四日

13.3.13

海軍大臣村止格一殿

横須賀海軍造務部長中山勲

大正十三年三月十一日

船

船名

編入年月日

編入理由

保管船編入一件

編入理由

編入理由

編入理由

横須賀海軍造務部所屬
公稱第四二四號運貨船

公稱第四七號水船

公稱第三四一號水船

右報告又

大正十三年三月十日

公稱第三四一號水船

公稱第三四一號水船

公稱第三四一號水船

18頁十頁

1161

軍務局

三月三日

<p>司令官 参謀 副官</p> <p>海軍</p> <p>鎮横 18.3.24</p>	<p>第一師團 第四三</p> <p>大正十三年三月二十日</p>	<p>横須賀海軍造修部長中山勲 様</p> <p>海軍大臣村上格 様</p>	<p>第四部</p> <p>保甲船編入件</p> <p>18.三月一四</p>	<p>後第四五號</p> <p>貸取</p> <p>大正十三年三月二十日</p> <p>編入年月日</p> <p>編入理由</p>	<p>右報告第一課</p> <p>根谷技師</p> <p>18.4.14</p>
--	-----------------------------------	--	---	---	--

吳港第 八 號 一八五

大正十三年七月十九日

吳海軍港務部長 田 中 勇

第一課 海軍大臣 財 部 艦 隊

還納船隻ニ編入ノ件

當部所屬左記船隻ノ船體一般老朽シ將來修補使用ノ價值ナキモノト
認メ候ニ付本府司令長官ノ認許ヲ得テ還納船隻ニ編入致候

第四部

總務部

第三課

公解番號	船 種	還納日期	備 考
第一三八一號	傳馬船	大正十三年七月十日	吳鎮第五〇號ノ
第三七二號	巡貨船	大正十三年七月十日	吳鎮第五〇號ノ
第一六〇八號	水 船	右 同	右 同

13.8.2 第三課

13.7.31

總理部長



海軍大臣

海軍省

海軍部

海軍港務部長

田中

中

海軍省

海軍部

海軍港務部

海軍港務部長



吳港第

號

大正十三年九月二十七日

吳海軍港務部長 田中

海軍大臣 海軍部 彪 殿

軍務局

十月

日進達

還納船艇ニ編入ノ件

左記當部所屬雜役船ハ船体老朽シ將來修理使用ノ見込ナキニ付本府司

令長官ノ認許ヲ得テ還納船艇ニ編入致候

右 總務部第三課

中川部員

艦政本部

總務部第三課

記

船名

總務部第一課

還納船艇ニ編入年月日

記

龍

魚雷標的船 大正十三年九月二十六日

大正十三年九月二十六日 還納船艇ニ編入致候

曙

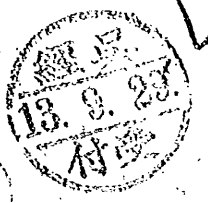
右 同

右

同

右

同



1165

海軍

模造半葉十三行野紙

海軍省

海軍省 海軍部

海軍省 海軍部



11-15
15

大正十三年十一月十五日

海軍省 局長

横島 佐鎮 参謀長 (連名) 宛

豫備艦ノ處理及保管ノ事ニ付

軍艦 筑摩 年々早々、千歳、明石、淡、及島上、来々

十一月一日(淡ノ現任務完了後)第四予備艦ニ編入大正

十四年一月月中旬(淡ノ五月中旬)ヨリ定負リ四重カサルト

相承キ、就テ右諸艦ニ二月ノ豫備艦ノ以テ現状

後旧ノ得ルヲ標准トシ豫備艦ノ規則ニ依リ本年

十二月中旬ニ豫備艦ノ保管ニ要スル準備作事ヲ完了

スル標印及針相承度高之カ保管ニ要スル人負境

カ
ロ
の
機

海軍 模造半葉十三行野紙

勅部 臨時 檣四五セウニヘスル年自可カ限度所分カ
人負之可調 上之急ニ通 報 相承之度
右通令カス

Handwritten notes and signatures in the top right corner.

軍務局

第一課

局員

井上

海軍 横造半葉十三行界紙

副官

算

供覽

大正十三年十二月 日

軍務局長

吳 鎮 参謀長宛

印

印

五月十日

明石、千歳、ハ、中、貞、軍、港、ニ、郵、箱、留、ノ、コ、ト、ト、シ、準、備、ヲ、進、メ

ラ、レ、度、ニ

軍務局



大正十三年十二月十二

日 午後 時 分

局 著

海 軍

第一課 發信者 吳鎮守府 參謀長
受信者 軍務局長

電報譯

明石、千歳、舞鶴、函館、本府トシテハ、好都合ナ
ルモ、目下、函館ト、繫留準備殆ト完事ニ自
カ、用航準備ニハ、二週尚ヲ要スルノミナラス、尚、擧
航後、再ヒ整理ヲナス必要人員等、関係モアリ、來
春、運用術練習艦ニテ、曳航ヲ希望ス、準備ノ
都合アリ、又

(明正印原稿)

海軍

模造半葉十三行野紙

第一局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

大正十三年十二月五日(發付日) 軍務局長

與鎮參謀長宛

豫備艦船繋留保官ニ関スル件

中其ノ付所ノ官ノ予備艦船ハ相當多數ニシテ自然各種ノ不便
之可有之港内設備及艦隊入泊等ノ場合ヲ考慮シ定
ム自ラ四五カシカ明石及4歳(淀)ハ之ヲ無舞鶴ニ於テ繋留
保官ヨリ之ヲ便利トスルハ謀有之ニテハ執ラハ至急ノ旨
見承知致ス度
右照會ス

軍務局長 五三九號

1171

15

海軍省 第一四三號

大正十三年十二月二日

軍務局

第一課 舞鶴要港部參謀長職務執行者
第二課 海軍大佐 池田 他人

海軍省軍務局長 小林躋造 敬

豫備艦繋留ニ関スル件

豫テ口頭ヲ以テ當部司令官ニ御話有之候
首題ノ件調査候處別圖ノ通り繋留方
差支無之只之ニ要スル港用品並陸上設
備ニ於テ左記ノ通不足又新設ヲ要スル
有之候條御了知相成度

室務第五三九號

海軍省

1172 13.12 4

右通報ス

追テ大凡何日頃ヨリ本件實施可相成御
内意ニ候哉承知致度候

左記

一港用品不足額

錨 六噸

二個

錨鎖 三十三粒

八〇節

柔軟鋼線網 一三粒

一一房

二新設備

繫船杭

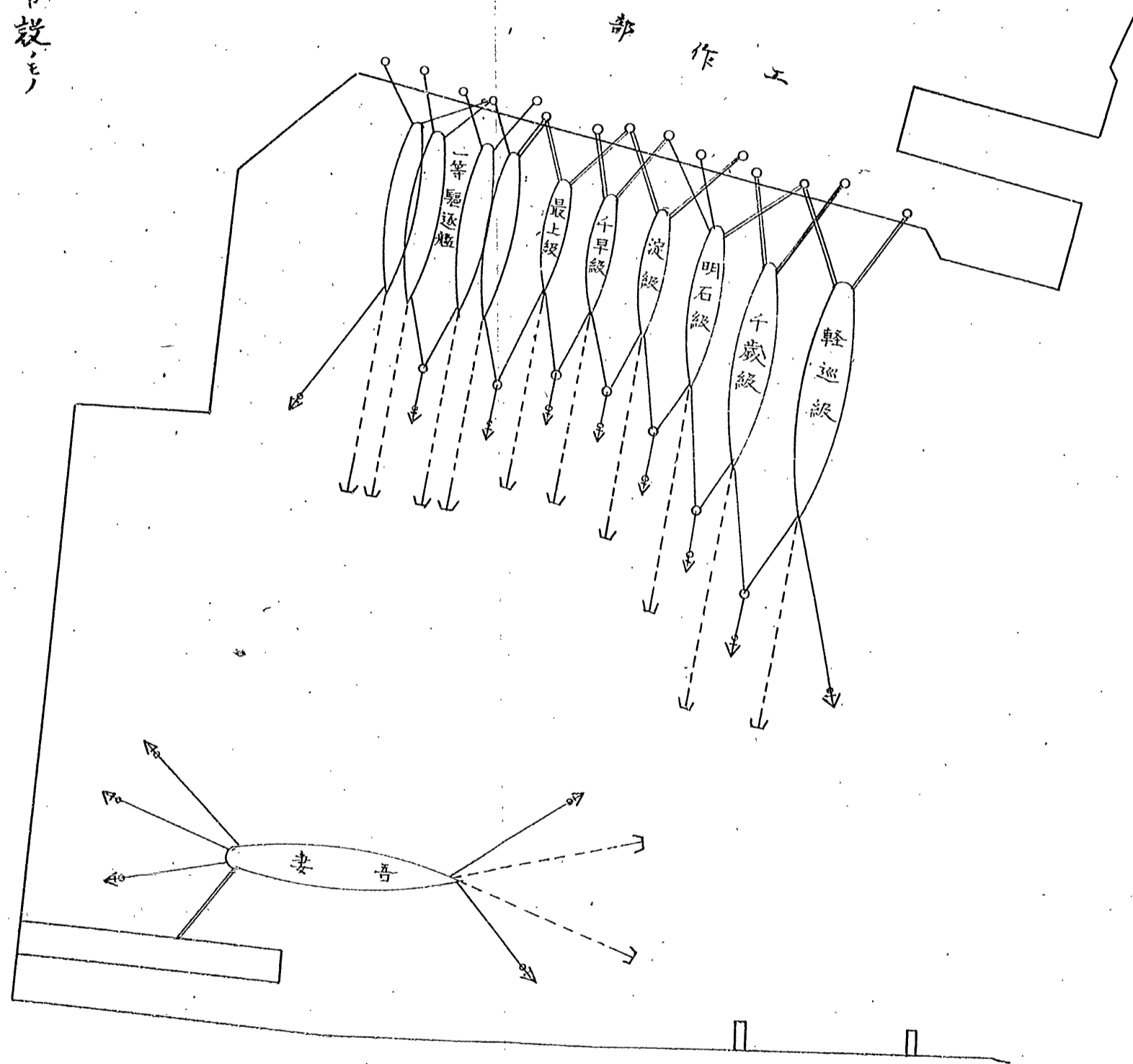
張力二五噸ニ堪ユルモノ

一〇個

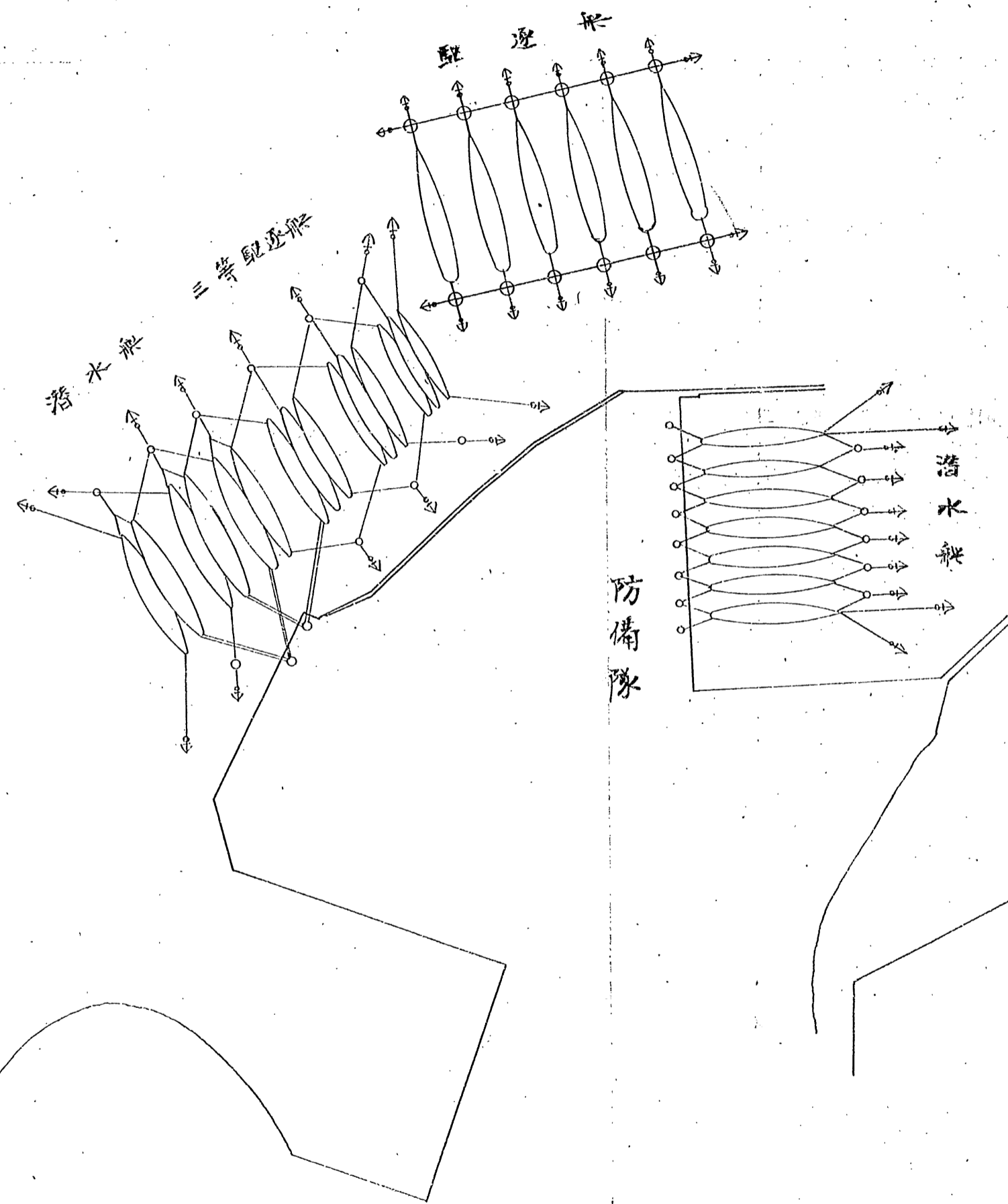
(別圖ニ葉添)

西村 納

(黒) 八回有常設
 (朱) 八豫備 船 警 番 ノ ノ
 増設ノモノ



部 習 練



(黒) 固有常設
 (朱) 豫備艇整番
 増設

1175

録
録

軍務局

大正十三年十二月二十五日

午後四時五分

海軍

局發

第一課

受信者

發信者

軍務局長

日大鎮守府長

電報譯

明石千歳 繫留保管長準備終了乗員
撤退期日 発表後七日間に於て
務處理終了見込 豫報あり度

迅電

十二月二十五日午前時

十時十分 明石千歳 係留保管長準備終了乗員
撤退期日 発表後七日間に於て
務處理終了見込 豫報あり度

(真正印刷)

1176 13.12.26